平成２９年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	３年間の目標 （平成29年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （3月10日実施）	総合評価（３月22日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○基礎学力の充実を図り、生徒が社会の中で自信をもって自らを生かそうとする姿勢を養う。 ○普通科への学科改編により教育活動が充実したものとなるよう努める。 ○生徒が主体的に学習し、成就感や達成感を味わうことのできる授業づくりに努める。	○基礎基本の学習内容の理解とその定着を図り、社会へ積極的に関わろうとする姿勢を養う。 ○普通科の生徒のニーズに応える教育課程の編成に努める。 ○研究授業等を通じて教科指導の工夫と改善を図り、生徒が自ら学び高められるように努める。	○基礎学力を重視し、必修科目の学習内容をより一層充実させる。 ○教育課程の編成とともに、これまで蓄積したさまざまな教育資源やノウハウについて、普通科に生かせるよう検討する。 ○各教科、科目が課題を組織的に設定し授業研究を進め、生徒の主体的な学習を促す。	○基礎学力の定着が図れるよう、必修科目の学習活動内容が充実できたか。 ○生徒のニーズに対応する専門科目や学校設定科目が設置されたか。 ○組織的に授業研究、授業改善に取組めたか。	○オンライン学習サービスを利用した主体的な基礎的学習を取り入れた。 ○総合学科に設置されている科目を活かす普通科の選択科目について検討した。 ○「主体的・対話的・深い学び」をテーマに研修会を行い、授業改善に向けた取組をした。	○「主体的・対話的・深い学び」については、一定の知識をもとに学びを深めていくため、基礎学力の定着がいっそう求められる。 ○生徒のニーズと普通科の設置科目に微妙なずれが生じているため、さらなる検討が求められる。 ○「主体的・対話的・深い学び」についての理解をさらに深めていく必要がある。	○参加型の授業を取り入れることで、生徒の授業への取組が変わってきている。校内研修会の成果も感じられる。今後も研修会の充実から授業改善へとつなげてほしい。	○基礎学力を重視し、必修科目の学習内容をより一層充実させるため、「主体的・対話的・深い学び」をテーマに研修会を行い、授業改善に向けた取組をし、生徒の取組に対し成果を上げることができた。	○研修会等から「主体的・対話的・深い学び」についての理解をさらに深め、基礎学力の定着に努める。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○社会生活のルールと基本的な生活習慣を身につけ、それを守ろうとする態度を育成する。 ○多様な課題を抱える生徒の状況を的確に把握し、家庭と連携して課題解決に役立てられる適切な支援を行う。 ○交通安全教育を徹底して、生徒が安全に登下校できるよう努める。 ○生徒の自己肯定感を培い、他を尊重し、思いやりのある豊かな心をもって他と協調する姿勢を養う。 ○部活動を推進し、豊かな心を育成し、自主性と自立性を身につけさせる。	○正しい生活習慣を身につける姿勢、社会のルールを守る態度を育て、規範意識を向上させる。 ○生徒一人ひとりの生活状況を把握し、的確な支援を行える組織を構築する。 ○自転車の乗車マナーを守らせ、登下校を安全にできるようにする。 ○他者との関わりを大切にし、集団の中での自己のあり方を客観的に判断できる心を育てる。 ○部活動加入率を増加させ、自主性と自立性を身につけさせる。	○服装・頭髪・遅刻の各指導を通して、自ら正すことができるまで指導を継続的、組織的に行う。 ○ソーシャルワーカー、カウンセラーやメンターとの協力、連携で早い対応、継続的な支援を行う。 ○定期的な自転車乗車指導等を行い、マナー向上を図る。 ○積極的な行事や部活動、学級活動への参加を促し、グループ、集団のなかでのコミュニケーション力を高める場をつくり、自己のあり方を探らせる。 ○部活動紹介等を積極的に行い、部活動加入率を増加させる。	○服装・頭髪・遅刻に対する意識が向上し指導される生徒は減少したか。 ○ソーシャルワーカー、カウンセラーやメンターと情報を共有、連携し、早い対応による支援を行うことができたか。 ○生徒の自転車乗車マナーが向上し、交通安全への意識が高まったか。 ○自己を高める活動の場を生徒一人ひとりに設けることができたか。 ○生徒一人ひとりが積極的に行事や部活動に参加し活動したか。	○長期休業明けの頭髪の乱れがあり、改善指導に努めたが中々徹底できていない。 ○ソーシャルワーカー、カウンセラーやメンターと情報を共有、連携し、適切な支援を行うことができた。 ○登下校中の事故や地域の苦情など、意識向上が徹底していない。 ○ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力が全体的に高くなり自己肯定感を持てる生徒が増えてきた。 ○新入生部活動オリエンテーションを拡充・充実させた。	○一人ひとりに声かけを行い、全員の意識が向上するよう環境作りをしていく。 ○学校生活に関するアンケートからいじめ等を把握し未然防止に努めていく。 ○長期欠席等の理由がなかなか把握ができない生徒に対し、さらなる密な支援体制が必要である。 ○交通安全教室等を通してマナー向上等の意識付けをしていく。 ○生徒が何事にも積極的に取り組んでいける環境作りをしていく。 ○他のグループと連携を図りながら、学校全体の部活動加入者増加を図る。	○登下校のマナーについては、他校でも問題になっている。引き続き取り組んでほしい。 ○中学生にとって学校選びの際、部活動は大きな割合を占める。中学校から継続して部活動ができるような環境にしてほしい。	○基本的な生活習慣に係る指導について、学校全体で取り組んできたが、概ね成果が見られるものの一部の生徒に徹底できていない状況がある。 ○支援を必要とする生徒に対しては、職員間で状況を共有し、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携により迅速に対応することができた。 ○部活動の推進について、部員数に大きな増加は見られないが、顧問のはたらきかけにより、いくつかの部活動で活動内容が活発になってきた。	○職員間で共通理解をもち、指導に差異が生じないように全体で指導を徹底する。 ○職員が情報を個人で抱え込まないように、連絡を密にとり年次や生活グループを基に連携の体制を作る。 ○生徒が活動しやすい環境作りについて、サポートグループを中心に検討する。

3	進路指導・支援	○社会の中で積極的に自らを生かそうとする姿勢とコミュニケーション能力を育成する。 ○自らの基礎学力を伸ばす努力を大切にし、自分の夢を描く力を身につけ、卒業時の進路について主体的に判断できる力を涵養する。	○社会の中で積極的に自らを生かそうとする姿勢とコミュニケーション能力を育成する。 ○キャリア教育を通して、卒業時の進路について主体的に判断できる力を育成する。	○授業や体験活動を通じて、コミュニケーションを大切にし、自己理解を深め、新しい自分の発見を促す。 ○進路や将来の職業について考えられるよう努め、自己を生かせる進路の発見ができるよう努める。 ○進路ガイダンス、面談を通じて、進路実現に向けて主体的に活動できるよう促す。	○授業や体験活動を通じて、コミュニケーション能力の育成を図れたか。 ○インターンシップ・校外講座やガイダンス等のキャリア教育の機会を提供することができたか。 ○資質能力の大切さと進路実現に向けて主体的な活動ができるよう進路支援できたか。	○授業や体験活動を通じて、コミュニケーション能力の育成を進めた。 ○インターンシップ・校外講座やガイダンス等のキャリア教育の機会を提供した。 ○主体的に取り組んだ生徒は自らの資質能力を高め、進路実現に向けて取り組んだ。	○コミュケーション能力向上のためのプログラムの充実を図る。 ○インターンシップ、連携講座、大学専門学校等の校外活動へ参加する意識を育てる。 ○担任、年次、グループ全体の協力体制を図る。	○キャリア教育への取組はしっかりしているが、今後入試改革も見据えてのキャリア教育が必要である。 ○進学が目的ではなく、最終的な進路を考えさせてほしい。	○授業や体験活動を通じて、コミュニケーション能力の育成を進め、社会の中で積極的に自らを生かそうとする姿勢とコミュニケーション能力を育成することができた。 ○インターンシップ・校外講座やガイダンス等のキャリア教育の機会を提供し、キャリア教育を通して、卒業時の進路について主体的に判断できる力を育成することができた。	○総合学科で培った授業や体験活動のノウハウを普通科へと継承していく。 ○目先の進路ではなく、将来を見据えた進路選択ができるようキャリア教育を推進していく。
4	地域等との協働	○地域の教育資源が最大限活用できるよう努め、教育活動全体を通じて体験活動を重視しながら、キャリア形成に努める。 ○地域や保護者との連携をさらに進め、地域に開かれ信頼される学校づくりを進める。	○生徒のキャリア形成を進めるために、地域の教育力を積極的に活用する。 ○学校行事や部活動等を通して地域に開かれた学校づくりを進める。	○積極的に地域の施設や人材を活用しながら、生徒が地域の一員である意識を培う。 ○地域の自治会や市区との対話を重視し、学校が地域とともに発展できるように努める。	○地域の教育力を積極的に活用することができたか。 ○学校行事や部活動を通して地域との関わり、連携を深めることができたか。	○事業所訪問や企業説明会など地域の教育力を積極的に活用することができた。 ○福祉施設での実習、近隣小学校との授業連携や部活動での中学校との連携などさまざまな連携を行った。	○地域と学校のつながりを深めるための行事を充実させていく。 ○各行事においての地域との連携をさらに密にとる。	○今までのつながりを大事にしていくべきである。	○事業所訪問や企業説明会など地域の教育力を積極的に活用し、生徒のキャリア形成を進め、地域の教育力を積極的に活用することができた。 ○福祉施設での実習、近隣小学校との授業連携や部活動での中学校との連携などさまざまな連携を行い、地域に開かれた学校づくりを進めることができた。	○地域とのつながりを継承しながら、普通科へのプログラムへ生かし、生徒のキャリア形成を進めていく。
5	学校管理 学校運営	○本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進し、地域や生徒・保護者等広く教育活動の理解が得られるよう努める。 ○普通科への学科改編による必要な整備を行うとともに、中学生等へ周知し、新たな学校の魅力の理解が得られるよう努める。 ○生徒の防災意識を高め、命を守り大切にする行動がとれるように指導するとともに、地域社会において、協調して貢献しようとする生徒を育てる。 ○事故について、未然防止に努めるとともに、起きた際には、最善の対応を尽くす。	○本校の教育活動について積極的に情報を提供し、地域や生徒・保護者等に理解が得られるよう努める。 ○新たな学校の魅力を発信し、中学生や保護者への理解の浸透を図る。 ○生徒の防災意識を高め、災害時にも冷静に自らの命を守る行動がとれるようにする。 ○事故の未然防止に最大の注力を注ぎ、事故発生時には適切な対応を行う。	○教育活動、生徒活動の情報をホームページ等により積極的に校外に発信する。 ○学校説明会等で学科改編後の本校の特色について、十分に広報していく。 ○避難訓練（火災）とシェイクアウト訓練（地震）を実施する。 ○事故の未然防止対策を練り、不測の事態に対する体制を整える。	○学校行事の取り組みや日頃の部活動の活躍を発信することができたか。 ○学校説明会等で学科改編後の本校の特色について、十分に広報していくことができたか。 ○単なる防災訓練ではなく、自分のこととして、真剣に取り組ませることができたか。 ○さまざまな活動で、適切な運営の下、事故の未然防止に努めたか。	○学校行事や学校説明会等の新しい情報を、こまめに更新しながら発信することができた。 ○学校説明会等で本校の普通科としての特色について、十分に広報することができた。 ○５月に火災を想定した避難訓練、９月に地震を想定したシェイクアウト訓練を実施し、生徒の防災意識を高めることができた。 ○さまざまな場面で事故防止の注意喚起を行い、自己の未然防止に努めた。	○ホームページにおいて、総合学科に関する情報に古い情報が残っており、更新していく。 ○学校説明会以外に普通科の特色をアピールできる場を検討する。 ○一部の生徒が真剣に取り組んでいない場面もあり、さらに強い指導も必要であった。 ○事故の未然防止のための具体的な手順等を具体化していく。	○この学校でなければ学べない、体験できないという特色があると良い。 ○中学生に向けて、進路保障のアピールが必要ではないか。 ○中学校教員が行きやすい説明会ができないか。 ○卒業生の声などをホームページ等にもっと載せても良いのではないか。	○本校の教育活動について積極的に情報を提供し、地域や生徒・保護者等に理解が得られるよう努めたが、普通科の特色のＰＲに課題が残った。 ○新たな学校の魅力を発信し、中学生や保護者への理解の浸透を図ったが、さらなる周知の必要性がある。 ○生徒の防災意識を高め、災害時にも冷静に自らの命を守る行動がとれるようにすることができた。 ○事故の未然防止に最大の注力を注ぎ、事故発生時には適切な対応を行うことができた。	○普通科としての魅力を職員全体で共有・確立できるように、検討していく。 ○広報活動の内容・方法についても改善に努める。